その他の設置方法

ピンレスブリッジへの取り付け

ピンレスブリッジでは付属の取付けツールは使えないため、別の手段で取り付けを完了する方法について2つの提案があります。
まず、標準的な説明書に記載されている、ギターを準備するための手順を行なってください。
取り付けを成功させる最善の方法は、ピックアップをブリッジプレートのサドルの真下に配置する事です。位置は1 つのピックアップをE弦とA弦の間に、もう1つをB弦と高E弦の間に配置します。これを達成するには、ギター内の場所を確実に識別する方法が必要です。しかし単に周囲を触って推測することは止めた方が良いです。

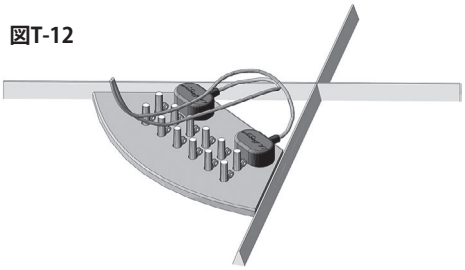
• オプション A:
1つの方法は、サドルのスロットに非常に小さな穴(つまようじ以下)を2つ開けることです。1つはE弦とA弦の間に、もう1つはB弦とE弦の間に開けます。細かいサンドペーパーと平板を使用し、開けた穴の周辺のバリや破片をすべて取り除きます。布に消毒用アルコールを少量含ませて拭きます。各穴につまようじを差し込み、先端がブリッジプレートを通過するまで押し込みます。ブリッジの下を探し回ってつまようじの先端を探します。1つのピックアップから両面テープの保護シールを剥がし、親指と2本の指でピックアップつまみながら、ボディ内に入れていきます。ピックアップの中央がつまようじに当たるように慎重に位置を見つけます(つまようじが抜けないように上から軽く抑えている方が良いかもしれません)。位置を把握したら、接着面で軽くつまようじ先端に触れ、それからピックアップをしっかりと押し付け固定していきます。ブリッジプレートとピックアップの間でつまようじの先端が折れないように注意しながら、ピックアップの底面がつまようじをブリッジの上に押し上げるようにすると良いでしょう。2番目のピックアップでも同じ手順を繰り返します。後は、残りの標準手順を続けます。

• オプション B:
ブリッジプレート上の理想的な位置を特定するもう1つの方法は、ギターの外側のブリッジの上面または前面に強力な磁石を使用し、内側に磁石または鉄片を使用することです。これは状況により色々な方法を試す必要があるので、状況に最適な方法を見つけるために手間取るかもしれません。磁石の端をサドルの約6ミリ前に置き、磁石の端を外側の弦と揃えるようにしてください。これにより、ピックアップの端を置く面と、外側の弦の位置を把握する参考になるでしょう。

12弦ギターの場合

12弦ギターでは、HiFiピックアップを取り付けるのに小さな課題があります。ピックアップが標準の向きで取り付けられている場合、2番目のピンのセットが存在するため、ブリッジピンの周りに配線を通すのは困難です。配線がピンに接触する可能性が生じ、オーディオに望ましくない影響が生じる可能性があります。この場合、配線がサウンドホールに向かう方向でピックアップを取り付けることをお勧めします。そこから徐々に配線を巻き戻し、ギターの後ろに行くようクリップで固定します。
図T-12を参照してください。

図T-12



ガサガサ音やその他の不要なノイズが鳴る時

• 配線を確かめる
このピックアップは繊細に音を拾うと共に、動きや振動に非常に敏感です。ガタつきが発生する最も一般的な場所は、ピックアップの配線がギター内で動き回ったり、互いに擦れたりすることです。したがって、すべての配線が付属のクリップで所定の位置にしっかりと保持されていることを確認することが非常に重要です。最適な方法については、**図T-1aおよびT-1b**を参照してください。クリップの位置はケースバイケースでギターに最適と思われる位置に固定して下さい。

• ブリッジピン/ストリングエンド
共振のもう1つの一般的な原因は、ピックアップ本体または配線とブリッジピンまたはストリングエンドとの間の接触です。この問題が発生した場合は、接触しないようピックアップの位置を変更する必要があります。

弦のバランスが悪い時

ほとんどの場合、弦のバランスは非常に均一になります。ただし、1つまたは2つの弦でアンバランスが発生した場合は、1つまたは両方のピックアップの配置を変更して実験すると、より良い結果が得られます。たとえば、B弦の音量がG弦や高音のE弦よりも大きいという状況が考えられます。この場合、ブリッジプレートに十分なスペースがあれば、ピックアップをサドルからサウンドホールに向かって移動します。その方向に移動すると、弦のアタックが少しだけ柔らかくなり、ほとんどの場合、弦間のバランスが均等になります。6 弦のEが大きすぎる場合は、ピックアップをAとDの方向にわずかに動かします。逆にEが弱い場合は、ピックアップをその方向に戻します。注: ピックアップを移動するたびに、必ず新しい両面テープを使用してください。

過剰に低音が響く時

これは一部のギターで時折発生します。一般的には、自然に低音が響きやすいギターや、より軽いブレーシングを備えたギターなどで起こりうる事柄です。これはフィードバックを発生させる原因にもなり得ます。

• 設定:
まず、トーンコントロールが中央位置に設定されていることを確認してください。

• 正しい取付けの確認:
最初に行うことは、ピックアップが正しく取り付けられているかどうかを確認することです。各ピックアップはサドルの真下のブリッジプレートに取り付ける必要があります。ピックアップがサドルの位置から離れると、より遠くに聞こえるようになり、低音が重くなります。解決策は、それらを正しい場所に再インストールすることです。

• 修正方法:
取り付けが正しく行われ、低音の重い応答が続く場合は、接着剤の小さな部分を除去することでピックアップの低音の応答を減らす方法があります。これには多少の実験が必要になるかもしれませんが、その方法を記載します。まずベース側ピックアップをギターから取り外し、両面テープを新しいものと交換します。次に、**図T-2**に示すように、カミソリの刃を使用して、ピックアップの中央にある接着面の約1.6mmを慎重に取り外します。ピックアップ本体に切り込みを入れるとバリが発生し、ピックアップの性能に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。ピックアップを再度取り付けてテストします。ほとんどの場合これで十分ですが、欲しい音が得られるまでに、多少の試行錯誤が必要になる場合があります。

薄く不快な音がする時

• 設定:
まず、トーンコントロールが中央位置に設定されていることを確認してください。

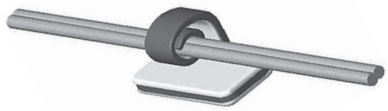
• 設置面の確認:
この現象は通常、ピックアップとギターの表面の間の何らかの干渉によって引き起こされます。小さな木の破片から、穴、未仕上げの木の粗い表面、さらにはピックアップの接着剤の折り目、ブリッジプレートの端からはみ出たピックアップの一部まで、あらゆるものである可能性があります。通常の状況では、この影響は発生しないはずなので、このような現象が発生している場合は、鏡とライトを使用して設置の状態を注意深く調べてください。明らかな原因が見つからない場合は、片方または両方のピックアップを取り外してください。取り外したら、粘着パッドを確認します。表面の一部が適切に接触していなかった場合、その領域の接着剤が光って見えますが、ギターと完全に接触していた部分はつやの無い状態になっています。この様な箇所が見られた場合、解決策の方向につながる可能性があります。

• 取付状態の確認:
もう1つ注意すべき点は、取り付け時にピックアップが説明書のセクション 9 に記載されているとおりに正しく取り付けられているかどうかです。ピックアップが適切に取り付けられていないと、やや薄っぺらなエッジの効いた音になる可能性があります。

• 取付位置の確認:
細くて耳障りなサウンドを引き起こすもう 1 つの要因は、一方または両方のピックアップがブリッジプレートの端から部分的にはみ出ている場合です。ピックアップ本体がブリッジプレートからわずかにはみ出ているだけでも、全体のトーンの豊かさに驚くほどの影響を与えます。

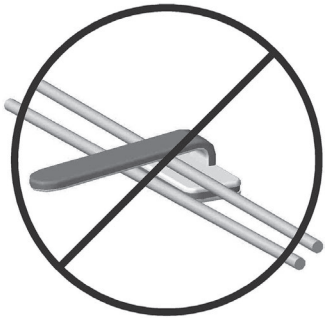
これらの潜在的な原因に対する主な解決策は、ピックアップを取り付ける場所にきれいな平らなスペースを作り、ピックアップの周りの100% がブリッジプレート内に適切に配置されるために必要なことは何でも行うことです。

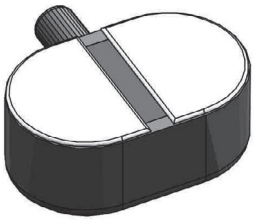
図T-1a



正しい固定
この方法により、配線が楽器の表面から離れ、配線をしっかりと保持して不要な振動を防ぎます。

図T-1b



正しくない固定
この方法は一般的ですが、効果的ではありません。配線が振動し、信号に不要なノイズが発生する可能性があります。

図T-2